

中秋節・国慶節 8 連休

～全国7,534億元の消費、経済成長につながるか？～

広州デスク 植 兆俊

低調な観光消費

数億人が移動するといわれる中秋節・国慶節シーズン。

中国国家観光局は、中秋節・国慶節8連休の旅行者数と消費額を発表しました。国内旅行者数は8億2,600万人、観光収入は7,534億元でした。コロナ禍前の2019年の連休との比較では、国内旅行者数が4.1%増、観光収入が1.5%増です。しかし2019年が7連休であったことを考えると、旅行者数の伸びは高くなく、一人当たりの旅行支出は減少しています。

主な観光地が人で埋もれている連休中の様子がメディアで報道されましたが、これらの観光地は通常の休日でも混雑しています。中国国民の旅行意欲はコロナ禍を経て確かに戻っているものの消費には繋がってはおらず、これからはバックパックが主流になりそうな気配すら感じます。

※1人民元≒20.5円(2023.10末)

オーバーツーリズム

今年は特に中秋節とも重なり、振替休日は9月29日から10月6日までの8日間連続。その代わり、連休明けの土曜日、日曜日が振替出勤になり、連休明けは連続7日出勤となりました。9月28日から国内各地でオーバーツーリズムが発生し、人気観光スポットでは当日チケットが手に入らないような事態も生



多くの人でにぎわう広州市北京路

じました。高速道路も瞬間積載量3,600万台という驚くべき数字を記録しました。世界文化遺産でも知られる万里の長城、連休の間は朝8時から行列ができ、連日数万人単位の観光客が押し寄せたそうです。訪れた人は「人ごみに押されながら写真撮影のスポットで留まることもできず、ただ流されていた」と口にしました。



観光客が押し寄せる万里の長城

大型連休づくりを見直そう！

今年の大型連休について、期待された消費が低調に終わるとともに、オーバーツーリズムの課題が浮き彫りになりました。

連休によって消費は拡大しますが、連休の大型化と消費額との相関は強くはないという向きがあるとともに、大型連休による観光地への悪影響を指摘する声も少なくありません。専門家においては「大型連休によって経済成長は果たせない。生産性の向上、持続可能性の達成こそが経済成長をもたらすのであり、そのような意味で休暇・連休を考えていく必要がある」との指摘もあります。

私も、そろそろ振替休日を使った連休づくりはやめて、観光地の混雑を回避することを考えるべきと思っています。社会に負担をかけない合理的な振替休日を設けていただき、生産性の向上にも繋げてほしいと思っています。

ひょうご海外ビジネスセンターは、世界11カ所に海外展開現地相談窓口として「ひょうご国際ビジネスサポートデスク」を設置しています。本通信は、毎月1回、各デスクから寄せられる現地トピックスを順にお届けするものです。